姉妹都市親善使節団報告書

＜セント・ピーターズバーグ市＞

1998年11月21日～11月28日

St. Petersburg
On Florida's Tampa Bay

Takamatsu International Association
TIA 財団法人 高松市国際交流協会

目　　　　次

Ⅰ　団員名簿　……………………　2

Ⅱ　日程　……………………　3

Ⅲ　ｾﾝﾄ･ﾋﾟｰﾀｰｽﾞﾊﾞｰｸﾞ市の概要　……　9

Ⅳ　研修報告　……………………　11

Ⅴ　ホームステイ所感　…………　19

姉妹都市親善使節団

団員名と役割分担および研修目標

ただ すすむ
多田 進　(団長)

中学校や高校，また，フリースクールなどの高校中途退学者問題への取組みについて視察したい。

すいた えみこ
吹田 恵美子 (交流会係)

ボランティアで朗読奉仕をしているグループや図書館でアメリカの視覚障害者の方々の情報収集の方法について聞いてみたい。

たにもとなおや
谷本 直哉　(記録係)

アメリカにおける小学校での情報教育の内容や設備の状況について視察したい。

ひらた ゆりこ
平田 百合子 (連絡係)

障害児に関わる施設・学校・作業所・地域での活動の場などを視察したい。

まえだ みどり
前田　緑　(会計係)

民間のボランティア団体がどれくらい存在し，どのような活動を行っているのか視察したい。

姉妹都市親善使節団日程表

日次	月日・曜	地名	現地時間	日　　程
1	11/21 （土）	高松空港発 関西空港着 発	8：20 8：55 16：35	航空機にて関西空港へ 出国手続 空路デトロイトへ
		デトロイト着 発 タンパ着 セント・ピーターズバーグ着	14：35 18：50 21：27 夜	到着後、国内線出発ロビーへ 国内線にて空路、タンパへ 到着後、セント・ピーターズバーグへ 各ホストファミリー宅へ （ホームステイ）
2	11/22 （日）	セント・ピーターズバーグ	終日	ホストファミリーとともにセ市視察見学 （ホームステイ）
3	11/23 （月）	セント・ピーターズバーグ	終日	セ市視察見学，市長表敬訪問 （ホームステイ）
4	11/24 （火）	セント・ピーターズバーグ オーランド		車でオーランドへ オーランド視察見学 （ホテル泊）
5	11/25 （水）	オーランド デトロイト ニューヨーク	朝 8：30 11：05 12：20 13：59	ホテルより空港へ 国内線にてデトロイト経由で ニューヨークへ 到着後、市内見学へ （ホテル泊）
6	11/26 （木）	ニューヨーク	終日	ニューヨーク視察見学 （ホテル泊）
7	11/27 （金）	ニューヨーク デトロイト	朝 9：30 11：33 12：45	ホテルより空港へ デトロイト経由空路帰国の途へ （機内泊）
8	11/28 （土）	関西国際空港 高松空港	16：55 19：00 19：35	関西空港到着、入国手続き 国内線にて高松空港へ 到着後解散

アメリカ研修記録

記録担当：谷本直哉

１１月２１日（土）【いざ出発！】

7：30　**高松空港に集合**

搭乗手続きを済ませ，見送りに来た方々に出発のあいさつ

（高松空港～関西空港～デトロイト空港～タンパ空港）

21：27（現地時間）　**タンパ空港着**

キャシー・プランタムラさん，バージニア・ローウェルさんをはじめ，現地のホストファミリーの方々が空港まで迎えに来てくれていた。セント・ピーターズバーグ市の横断幕を掲げての歓迎で，全員少し驚いた様子だった。

それぞれのホストファミリーに連れられて，各自解散。

１１月２２日（日）【ホストファミリーと過ごした休日】

終日　**ホストファミリーとの交流**

夜　**エマニュエルさんの家で夕食会**

フィッシャー市長夫妻，各ホストファミリー，セント・ピーターズバーグ市在住日本人の寿司職人，島田さん夫妻が集まってのガーデンパーティ。平田さんと前田さんは，ウイリアムさん夫妻と一緒に別の行動だったが，とても和やかな雰囲気で楽しいパーティ。メニューはエマニュエルさんが考え，調理はエマニュエルさんのお店の職人さんが手伝っていた。

１１月２３日（月）【公式行事】

8：30　**市役所前に集合**

キャシーさんとも合流し，ローウェルさんの運転で，各施設の視察に出発。

9：00　**ショアクレスト小学校を視察**

今年のネットアートの作品に応募した５年生の児童たちと対面。ネットアートの作り方を説明すると，非常に驚いていた様子だった。先生方は日本の教育システムに興味があり，たくさん質問された。小・中・高の一貫教育の私立学校で，施設も充実していた。

活発な意見の飛び交った質問タイム

10：15　**サンシャインセンター**

市立の社会福祉センターで，地域の医者，看護婦，ボランティアの人々がこのセンターの運営に協力している。福祉的な面だけでなく，高齢者の方々を集めて，車の運転の講習会なども開かれている。高齢者のソフトボールチーム「Kids & Kubs」の事務所もある。

11：30　**ＰＡＲＣ（Pinellas Association For Retarded Citizens，ピネラス郡の福祉施設）**

簡単なあいさつの後，職員の方々と昼食をとる。わざわざ日本食を用意してくれていた。高松や現地の様子など，和やかな雰囲気で過ごす。昼食後，館長さんから施設の生い立ちや社会的な役割の説明を受けて，日本での福祉に対する意識の低さや，政府（地方公共団体）と民間の連携，ボランティア（寄付）に対する日本人の意識の低さなどを切実に感じる。また，広大な敷地にたくさんの施設があり，乳児から高齢者まで，重度の障害を持ちながらも力強く生きようとする姿に，全員感銘する。この施設で生活している人々の生活環境が複雑なために，写真撮影は厳重に制限された。

サンシャインセンターの掲示板前で
説明を受ける

PARCへ寄付金を寄せてくれて亡くなった
方々の名前が，入り口正面の壁に刻まれている

14：15　レクレーションセンター

正面入り口付近では子供たちが野外学習中

日本の学童学級と公民館を合わせた機能を持つ施設。夕方になると，共働きの家庭の子供たちがスクールバスで集まり，低学年と高学年のクラスに別れて，それぞれの担当の先生の指示で遊んだり勉強している。バレエ教室や調理，絵画教室もある。大ホールでは，高齢者の方々がダンスを楽しんでいた。また，センターの企画した催し物（講座）も開かれている。

16：00　市長表敬訪問

増田市長のメッセージを手渡し，高松市の新しいパンフレットの説明を行う

デビッド・フィッシャー市長と記念撮影

前日のパーティでお会いしていることもあり，緊張せず，気楽な雰囲気での懇談であった。まず，市長さんからTシャツや本などのプレゼントをいただき，全員，市長さんに記念のサインを書いてもらった。次に両市提携４０周年の記念事業の話になり，少年野球チームの訪日については，「こちらにはリトルリーグがあるので，学校に支障のない時期（夏休み等）であれば，問題ないでしょう。」とのこと。市長は“Kids & Kubs” や“タンパベイ・デビルレイズ”でもいいとおっしゃったが，高松には対戦できる相手がいないと伝えると納得した様子だった。最後に全員で記念撮影をした。

18：00　ウイリアムさんの家での立食パーティ

フィッシャー市長夫妻，市の国際交流課の方々，ホストファミリーなど，約１５人ほどが集まって開かれた。直前まで開始時間や会場がころころと変わっていたらしいが，なんとか開くことができた。それぞれが適当な時間に集まって，流れ解散で終わってしまったパーティだったが，セント・ピーターズバーグでの最後の夜を各自満喫した。

１１月２４日（火）【一路，オーランドへ】

9 : 00　**市役所に集合**

ホストファミリーの方々と最後のお別れをして，ローウェルさんの運転でウイリアムさん宅へ。平田さん，前田さんをピックアップして，運転手もウイリアムさんに交代。一路オーランドに向けて出発。

11 : 30　**オーランドのハイアットホテルに到着**

ローウエルさん，ウイリアムさんとお別れをして，ホテルにチェックイン。ディズニーワールドに向けて出発。

12 : 30　**ディズニーワールド**

全員子供に戻った気分で，ディズニーワールドを楽しむ。ただ，半日だけで楽しむ場所ではないことが後になって分かった。どうやら，ここに来ている人たちは最低５日はいるようだ。

１１月２５日（水）【ニューヨークへ】

7 : 30　**ホテルをチェックアウトして空港へ**

ホテルと空港が隣接しているために移動は楽だった。ただ，各自の疲れ具合やホテルの朝食の時間，空港へのチェックインの時間などを考えると，この時間帯の飛行機はきつい。もう少し時間に余裕を持って行動したかった。

8 : 30　**国内線にてデトロイトへ**

（タンパ空港～デトロイト空港～ニューヨーク空港）

14 : 00　**ニューヨーク着**

ガイドの松崎さんが迎えに来てくれて，ひとまずホテルへ。ホテルまでの車中で，ニューヨークについての説明を受ける。翌日が感謝祭（サンクスギビングデー）のために，休館する施設が多いことを聞き，少しがっかりする。

15 : 00　**ウエリントンホテル着**

松崎さんはここでお別れ。時間的な関係で，団員はミュージカルを見に行く組と，国連本部を見学する組とに別れる。ミュージカル組は，ホテルの周辺を散歩してプラザホテルで休憩をした後，ホテルに戻り夕食をとって劇場へ。国連組は国連本部に行ってお土産なども買う。前田さんが，途中からミュージカル組に合流して一緒に見に行く。キャンセル待ちをして，見ることができた。

１１月２６日（木）【ニューヨークの市内観光】

終日　市内視察見学

松崎さんと合流し，サンクスギビングのパレードを見に行く。あいにくの雨模様だったが，パレードがホテルの近くを通ることもあり，歩いて見に行く。

自由の女神を見学に行く前に，「RADIO CITY」に寄って，夜のショーのチケットを買う。

船に乗って自由の女神像へ。サンクスギビングということもあり，人出も少なくほとんど待たずに中に入れた。しかし，雨でまわりも曇っていたため，台座のところまでエレベーターで登った。

シーポートで昼食をとり，ウインドーショッピングを楽しむ。

ウォール街，チャイナタウン等を車窓から眺め，日没を待って，エンパイアステイトビルへ。夜景がとてもきれいだった。

松崎さんに「RADIO CITY」まで連れていってもらい，劇場内へ。８千人収容のホールの大きさに圧倒される。

ミュージアム内にある自由の女神の顔

クリスマスの飾りがされたエンパイアステイトビルのロビー

１１月２７日（金）【帰国の途へ】

7:30　**ロビーに集合し，空港へ**

9:30　**ニューヨーク発**

（ニューヨーク空港～デトロイト空港～関西空港～高松空港）

19:35（現地時間）　**高松空港着**

高松市国際交流協会の方々と近畿日本ツーリストの職員の方々が出迎えてくださり，帰国のあいさつをすませた後，解散。

セント・ピーターズバーグ市の概要

1 人口　　　　２４３，８００人　（１９９８年）

2 面積　　　　１４８．４８平方ｋｍ

3 地勢

フロリダ半島の中央部西海岸に位置し，海抜２～５ｍの平地のみで湿地帯はない。南部はメキシコ湾を望み，大小の入江，広く長く続く砂浜およびコバルト色の海のコントラストにより風光明媚で，東部はタンパ湾があり，ハワード・フランクランド橋，ガンディー橋でタンパ市へ通じる。

また，市内外にセミノール湖，マジョレ湖などの大きな湖がある。

東経　８２度３８分　　北緯　２７度４６分

4 都市の性格

サンシャイン・シティと言われるほど気候的に恵まれ，フロリダ州第２番目の避寒保養地であり，ピネラス・カウンティ（郡）の中心都市。

5 気候

亜熱帯気候に属し，温暖である。

年間平均気温　２３．３℃
１月平均２１．１℃
７月平均２６．６℃
年間降水量　１３４．９ｍｍ
年間日照日数　３６１日

6 沿革

１６世紀頃，ヨーロッパからの探検隊がフロリダに上陸し，金を探し歩いた。セント・ピーターズバーグ市にも，有名な探検隊長の名をとったデソートと呼ぶ素晴らしいビーチパークがある。

１８７９年，ジョン・ウィリアム氏が，気候の良い健康的な場所に住むため，デトロイトからセント・ピーターズバーグに移り住み，その彼の援助を受け，ロシアからの移民であった鉄道事業家のピーター・ディーメンズ氏がこの地域の発展につくした。ディーメンズ氏の故郷が，ペテルスブルグ（旧レニングラード，英語読みでピーターズバーグ）であったことから，セント・ピーターズバーグと呼ばれるようになり，１８８８年に市制を施行した。１８８５年にアメリカ・メディカル・アソシエーションにより，最も健康的な場所として公表され，引退・退職者の憧れの地となっている一方，フロリダ州において，隣のタンパ市に次いで急成長しており，若者の人口も増加しつつある。

研 修 報 告

中途退学（ドロップアウト学生）に対する行政の取組み

多田 進

私のテーマの高校中途退学者の対する対応ということで，事前に施設見学を依頼していましたが，何かの手違いと，日程の都合で，その施設は見学できませんでした。

日本を出発する２週間前に，補足的な意味で，１０年来の知り合いである，セント・ピーターズバーグ市役所で働いているシェリー・エベルケさんに，資料依頼の手紙を書いて送っていました。それと，ホストファミリーのワーラス氏も教育関係に携わっている知人に電話をしてくれ，私が滞在している間に，ファックスで資料や情報を集めてくれました。

滞在中，市内にある私立学校ショアクレスト校を見学しましたが，そこは小学校から高校まである，市内にある唯一の非宗教系の学校で，高校の年間授業料が９，０００ドル（約１１０万円）で中流家庭以上の子供たちが通っている学校です。校内には，学生用の車の駐車場があり，私が調べている施設とは少し違うように思えました。

ショアクレスト校内にあるベンチで，自習時間の机としても利用されている。奥にはフットボール場が見える。

さて，本題に入りますが，セント・ピーターズバーグ市を含めたピネラス地域には，中途退学者防止プログラムがあり，小学校４年生から高校３年生まで，２，３学年に分けて，指定された学校に特別なクラスを設けています。ここでは，特に高校生について報告しますが，昨年ピネラス地域における，中途退学者の高校生全体に対する比率は，４．５６％ということです。彼らに対する行政の対応として，彼らは公立９校における卒業選択，すなわち不登校学生救済選択プログラムを受けることができます。それからまた，２つの公立施設，ピネラス技術教育センターおよびスミノル職業教育センターにおいても，個々の学生に合った授業を受けられ，高校卒業と同等のGED，すなわち一般教育ディプロマ（卒業証書）を受けることができます。なお，高校生で子供の親になり，通学困難になった１０代の母親に対する高校教育プログラムも確立しているという点も付け加えておきます。しかし，中途退学生に対して，各種救済センター等，行き届いた施設があっても，５％近くの学生が，ドロップアウトしているというのが実状です。

研修報告

吹田 恵美子

私は，セント・ピーターズバーグ市での朗読ボランティアの方々との交流を希望していましたが，市立図書館，サウスフロリダ大学図書館にはそのようなボランティア活動はないということで，交流ができず残念でした。アメリカの本屋では，絵本や小説が朗読テープ付きで売られているので，必要ないのかもしれません。しかし，高松市図書館では，現在ボランティアの利用があり，活動されているそうです。養成講座も２年に１度開かれ，修了者を登録しているようなので，私も次の講座を受講し，登録したいと思っています。また，私自身も，小説等をテープに録り，必要な方に差しあげたいと思っています。今回，アメリカの事情を知り，高松市図書館のサービスの細やかさを知りました。

サウスフロリダ大学図書館は，私がホームステイをさせていただいたシグニーさんの勤務先でもあるので，日曜日に連れていってもらいました。広々とした駐車場に車をとめて館内へ。図書館の雰囲気は，国が違っても同じだなあと感じました。その館内でちょっと変わったものを見つけました。シグニーさんが使い方を教えてくれましたが，それは老眼の人のための拡大桟で，細かい文字を大きくして見ることができるもので，大変便利だと思いました。

外に出てあたりを散策すると，図書館の裏はマリーナになっていて，たくさんのヨットが繋留されていました。美しく手入れされた芝生とフロリダの陽光に映える白いヨット。中庭のベンチに腰掛けて読書をしている人がいました。私もちょっと座ってみますと，本当に心地よい空間でした。サウスフロリダ大学図書館は，すばらしい景観の中にあり，毎日こんなところで仕事ができるシグニーさんがちょっぴり羨ましくなりました。そのことを言うと，シグニーさんはニコッと笑いました。

サウスフロリダ大学図書館の中庭にて

ショアクレスト小学校を訪問して

谷本 直哉

１１月２３日（月），セント・ピーターズバーグ市庁舎に集合した我々親善使節団一行は，まず最初の訪問地であるショアクレスト小学校へ向かった。

この学校は，小・中・高校の一貫教育が行われている。そして，この小学校には，今年の「高松冬のまつり」の期間中，高松市役所に飾られるネットアートのデザインを描いた児童もいる。我々は，アメリカの私立学校の教育環境にも興味を抱きつつ，訪問した。

【小学校での懇談】

学校に着いて，まずジェニー校長先生と簡単にあいさつをすませた後，小学校の多目的教室に入った。そして，小学校５年生の児童約５０名と対面して，懇談会が始まった。

まず，我々使節団の自己紹介をした後，５年団の団長先生から今回のネットアートの絵について説明があった。次に，我々のほうから，この１枚の絵がどのようにして大きなネットアートになるのかを説明した。この作り方は既に知られているとおりなのでここでは省略するが，①１つのネットの大きさが教室いっぱいの大きさであること，②そのネットを，昨年は１校につき２枚（１枚が５m×５m）ずつ担当したこと，を説明してあげたり，③昨年の作品（できあがりの飾られ方）を見せてあげると，とっても驚いた様子で，「オー！」という歓声が，頻繁に聞かれた。私自身も昨年の作品の製作を，教員として子供たちと一緒に経験していたおかげで，現地の子供たちに，具体的なことを教えてあげることができた。

また，子供たちだけでなく先生方からも，日本の学校のシステム（カリキュラム）や子供たちの日常生活（特に，休日の過ごし方）についてたくさん質問された。日本の子供たちは，休みになるとあまり外出せず，家でテレビゲームを楽しんでいる現状を説明していると，なんだか物悲しい気持ちになった。いずれにせよ約３０分間の懇談であったが，日本とアメリカの文化の違いを感じることもできたし，高松の様子を現地の子供たちに直接話してあげることができて，とても有意義な時間を過ごすことができたように思う。

【中学校・高校】

アメリカン・フットボールや野球のできる２つの大きなグランドの向こう側に中学校と高校の校舎がある。敷地内には食堂もあり，ジュースの自動販売機やビュッフェのカウンターもある。我々が訪れた時間は，ちょうど３時間目の「自習」の時間であった。

この「自習」の時間は，それぞれ自分のやりたい勉強をする時間である。教室内で勉強する者もいれば，特別教室へ行って勉強する者もいる。外側から教室を覗いてみると，机に向かって真剣に自習をしている姿には，少し驚かされた。日本では，中学生といえどもなかなか教室にじっと座って学習できない児童が増えている中，このような勤勉な姿が見られるのは，非常に素晴らしい教育がされているのに違いない。詳しいことを聞いていないのではっきりしたことは言えないが，「自習」という時間を１日のカリキュラムの中に組み入れて，自主性を培っていこうとしているのではないだろうか。同じ時間にパソコン室も見学させてもらったが，この教室を使用している子供たちも，生き生きとした表情でコンピュータに向かっていた。いかにも，この「自習」の時間が待ち遠しかったかのような表情だったのである。

現在の日本の教育は，“個性の尊重”や“ゆとり”の教育が叫ばれている。しかし，１年間（１学期間）という決められた時間の中で教えなければならないことは山積みされ，消化しきれないときがあるのも現実だ。学期末に近づき，消化しなければならないことはたくさん残っているし，学校行事だけでなく地域の諸行事へも参加しなければならない学校の現状を考えると，１日中（１年中）子供たちを拘束しつづけているのではないだろうか。そして，このことが結果として子供たちにはマイナスに作用をしているのではないだろうか。この学校の「自習」の時間のように，日本の学校のカリキュラムの中にも，１日１時間は“自分で学ぶ”時間を作ることが，本当の意味での“個性の尊重”や“ゆとり”の教育につながるのではないかと思う。

【コンピュータ教育】

前述したように，この学校には，コンピュータ教室がある。この教室は「自習」の時間などに，全校生に開放されて利用されている。また，高校には２つのコンピュータクラスがあって，インターネットのホームページを作るクラスと，コンピュータソフトのプログラミングを学ぶクラスとがある。

ここでは，小学校から一貫した情報教育が確立されている。コンピュータ室担当の先生によると，「そこにいる先生がどれくらいできるかで，何が教えられるかが決まってくる」という話だ。現実問題として，日本も同じことが言えると思うが，ただ，小学校から系統立てて学習している点は，大いに見習うべき点ではないだろうか。以前，長崎県の情報教育の研究をテレビで視聴することができたが，香川県も早く系統を確立して，それに沿った情報教育の学習がなされるべきである。特に小学校と中学校の連携の中で確立していくことが急務である。

姉妹都市研修視察報告

平田　百合子

視察希望先として障害児に関わる施設をお願いしていましたが，日本でいう養護学校のような所か，リハビリセンターのような所か，出発前には予想がつかなかったので質問内容は施設のタイプ別に用意していました。結果，視察させてもらったのはＰＡＲＣという心身障害者（児）のための総合的な施設で，子供から大人まで，軽作業可能な人から重度障害の人まで，また入所している人も通所する人もいるといったあらゆる機能を備えていました。

ＰＡＲＣ
(Pinellas Association For Retarded Citizens)

保育園のような雰囲気で障害児クラスという感じではない。

ＰＡＲＣは，障害児の親が自分の資産で作ったところから始まり，子供から大人まで約 500 人が利用，働いているのは 350 人，その他に様々な所でボランティアの受け入れをしていました。送迎のためのバンも 38 台，緑いっぱいの広い敷地に囲いのない建物が散在しており，こちらで見る障害者施設のイメージとはまず外観から随分違っていました。まず，大人のレクの時間や，ボールペンの梱包の作業所を見せてもらい，各自能力にあった作業をしているということで，お土産までいただきました。次に見た居住棟は，グループホームのようなもので二人部屋になっていて，食事はダイニングで同じ階の人たちが一緒に料理の練習もできるようにしてあって，とても家庭的な雰囲気でした。子供用の居住棟では，壁の絵やテーブルやイスなど，ボランティアの方が作成，寄付してくれているそうで，一人一人の障害やサイズに合ったものができていました。子供は昼間，学校に行く子や訓練に行く子など，それぞれのプログラムに合わせて出かけているので，３時過ぎまでは静かだということでした。リハビリなどに使う場所は Rain Forest Therapy Center といって，熱帯雨林の環境に似せた雰囲気（ジャングルの

動物の絵・音・匂い）の部屋になっており，子供がまずリラックスするように工夫されていました。最後に，重度の子供の部屋も見せてもらえました。自分の子供のこともあり，こまごまと質問してしまいましたが，最重度の子供の（医療的）ケアはここでも一番大変ということで，どこも同じであるということがよく分かりました。障害がなくても，親の暴力やアルコール中毒のために，この施設で保護されている子供も何人かいました。今の日本の何かと障害者を分別，レベル別に分けたがる風潮を疑問視したくなるほど，様々な障害者が総合的に利用できる施設でした。最後にワークショップで商品にしているおみやげ用のオーナメントをいただきました。お昼にここでごちそうになった日本食と共に，本当に感動してしまいました。障害児と共に生きる今後に是非いろいろ参考にしていきたいと思います。

熱帯雨林のような部屋。装飾や水の音，
ラベンダーの匂いを合わせたセラピールーム。

大人の作業所。道具を使ってボール
ペンを数えている二人。

視察報告について

前田 緑

今回の視察で私が希望していたものは，民間のボランティア団体の見学でした。そして，訪問できたのは公の機関ではありましたが，サンシャインセンターとレクレーションセンターという所でした。サンシャインセンターの方は，主に高齢者向けに作られた市の施設で，目的別にいろいろな部屋が設けられていました。編み物をする部屋，パソコンの講習を受ける部屋，車の運転を練習する部屋など，日本でいうなら，カルチャースクールのような感覚で自分の時間を楽しく過ごせるように作られていました。そして全米第一位にもなったことがあるという，高齢者の野球チーム「Kids & KUBS」の事務所も１部屋設けられていました。ここセント・ピーターズバーグ市は，市全体の人口の２５%が，６５歳以上の方で占められていて，仕事を退職し，余生をのんびり過ごそうとやってくる方が多いそうです。フロリダは冬でも温暖な気候で，ビーチでは，日光浴を楽しむ方がたくさんいます。

レクレーションセンターでも，たくさんのお年寄りがペアを組んで，エルトン・ジョンの「トルーラブ」というワルツの曲に合わせて，楽しそうに踊っていました。また，ここの施設は，高齢者だけでなく，託児所のような部屋もあり，小さな子供を預けることができ，おもちゃで遊んだり，バレエを習っている子供がいたり，自習をする子供がいたりしました。どちらの施設にも共通していえることは，みんな楽しそうに，時間に追われることもなく，ゆったりと生活しているということです。そして，一部の人だけが偏って利用するのではなく，地域に密着した身近に感じられる空間があるということです。

日本のように，建設費をかけ，せっかく立派な施設をつくっても，利用者が限られていたり，建前だけで建てたようなものとは少し違っているように感じました。

「Kids & KUBS」の優勝トロフィーや盾が並ぶ

レクレーションセンターの館長さんの出迎えを受ける

ホームステイ所感

ホームステイおよびアメリカ版パーティについて

多田　進

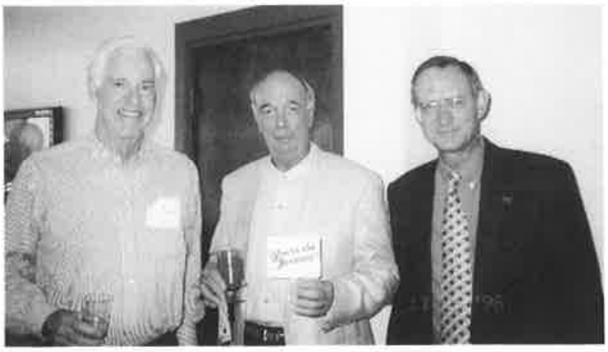
私のホストファミリーは，ビル&サリー・ワーラス夫妻。ビルは，１９２７年生まれの７１歳。１９９２年に，損害保険代理店の経営を退き，フロリダオーケストラの組織委員会の会長を務めたことがあるという活動的な人だ。一方，奥さんのサリーは，１９３０年生まれの６８歳で，８年間，市議会議員を務め，その後，本の販売会社の経営に携わり，現在はその職も離れ，趣味のテニスを楽しんでいる。３人の子供たちは離れて住んでいて，５人の孫たちの話をするときには，いいグランドパー，グランドマーの顔になった。二人とも気さくな人柄で，滞在中，いろいろ日本のこと，高松のことを聞かれた。

ホームステイ中，３つの違うパーティを経験した。

○バースデイパーティ

ワーラス夫妻とともに，彼らの友人であるビリー・ホワイト氏の６５歳の誕生日のブランチパーティに参加。友人達３０人程で，ヴィノイ・リゾートホテル内にあるヨットクラブの部屋で，１０人ほど座れる大きな丸テーブルを囲んでの食事会。食事をしながら，退役軍人のビリーの過去の武勇伝，ゴルフの話，不動産の話，街にある道路脇の目障りな看板撤去の話など。時々，話題が私に向けられ，日本のこと，高松のことなど質問を受けた。２時間のパーティはすぐに過ぎた。

ビリー・ホワイト氏の誕生日パーティにて
奥からホワイト夫妻，多田，サリー・ワーラスさん



左からビル・ワーラス氏，ビリー・ホワイト氏，フィッシャー市長

○ディナーパーティ

エマニュエル＆ジェニファー・ルー夫妻宅でのガーデンディナーパーティ。出席者約２０人。ホストの案内で席が決められ，手伝いのウエイターが給仕する。白ワインに，メニューは，ムール貝，スペアリブ。私の左隣は，フィッシャー市長夫人のマーゴさんで，右隣はバージニア・ローウェルさん。二人とも，今年５月に高松に来られているので，話が盛り上がった。フィッシャー市長から，増田高松市長をぜひ招待したいとのメッセージであった。

○カクテルパーティ

ジョン＆カリン・ウイリアム夫妻宅でのホームパーティ。団員が，各自料理した日本食をスナックに，ビール，ワインを飲みながら，統一性はなく，飲んだり食べたりするよりも会話を楽しむ。そこで，ネットアートの原画を描いた５年生のデビー・ローリーちゃんとお母さんとお会いし，絵に関して質問を受けた。パーティは，１時間半ほどで午後７時にはだんだん人が少なくなってきて，自然にお開きとなった。

ウイリアム夫妻宅でのカクテルパーティにて。キャシー＆ビル・プランタムラ夫妻

ホームステイによせて

吹田　恵美子

私のホストファミリーは，オーバーハーファご夫妻です。奥様のシグニーさんは，南フロリダ大学図書館に勤務されています。ご主人のトム氏はエッカード大学の教授です。シグニーさんとは，春に高松訪問のときにホストファミリーをさせていただいたので，今回の訪問はとても楽しみでした。ご主人のトム氏とはタンパ空港で初めてお

会いしましたが，背が高く，髭をたくわえた顔がとても優しそうで安心しました。到着が遅かったので，トム氏の運転でまっすぐ彼らの家に向かいました。家は大学の敷地内にあり，カレッジランドと書かれた門を入りしばらく走ると，ライトの灯かりにハイビスカスの花が浮かび上がり，そこがシグニーさん達の家でした。私の部屋は，キッチンに続く南向きの部屋で，うれしいことにバスルームが部屋の中にあり，まるでホテルのようなデザインでした。テーブルの上には，赤とピンクのペチュニアの鉢植えが置かれてあり，シグニーさんの優しさが感じられました。荷物を簡単に片づけてすぐにベッドに入り，朝までグッスリ眠りました。朝食は水辺に面したテラスでいただきました。フロリダの青空も小鳥のさえずりも私を十分に満足させるものでした。

トム氏は，毎朝スイミングに行かれると言うので，私も泳ぎたいと言ったら連れていってくれることになりました。朝食後，部屋を見せてもらいましたが，大学教授の家らしく（?）本の量がすごいし，全体の色合いがブラウンで落ち着いたインテリアでした。海外旅行のときに買われたお土産の絵やタペストリー，壷などがお洒落に飾られていました。高松市が春にプレゼントした独楽塗りのお盆もありました。彼女は，屋島山上の土産物店で随分迷った挙げ句に買うのを断念されたので，お盆のプレゼントをとても喜んで大切に飾ってあるんだなあと思いました。私とシグニーさんは買い物に出かけることにしました。冷房のきいた部屋から一階のガレージに行くときに，「なに？この暑さは？」と思い，ここはフロリダなんだと妙に納得しま

した。彼女は私の手芸好きを知っているのでクラフトショップへ。ちょうどクリスマスシーズンでオーナメントなどがいっぱい売られていたので，彼女が呆れるほど見て回り，友達にたくさんのクリスマス用品を買いました。今でもあれも買えば良かったと思うことばかりです。

セント・ピーターズバーグ市は広々としていて，道路も走りやすそうなので高松もこうだといいのになあと思いました。

夜に，エマニュエル氏の森の中の自宅でのパーティで，フィッシャー市長ご夫妻，ワーラスご夫妻，バージニアさんなど高松でお会いした方ばかりでとても楽しい夜となりました。

翌朝，シグニーさんたちとプールへ。歩いてすぐのところにあり，水なのでビックリ！でもここはフロリダ。全然平気でした。温水のジャグジーのようなプールもあり，とってもぜいたくな時間を過ごした朝でした。

シグニーさんとは春に会っているせいかも知れませんが，居心地が良く自然体でいることができました。トム氏も私の主人に似ているところがあり，彼が論文を読んでいる側の椅子で雑誌や新聞を見たりして過ごすのが私のお気に入りの時間だったのに，ホームステイの日数は余りに短いと思いました。

今回，友好姉妹都市親善使節団に選ばれ，セント・ピーターズバーグ市の皆さんと再会できたり，久しぶりのアメリカ・フロリダを満喫することができました。こんな機会を与えてくださった高松市および（財）高松市国際交流協会，そしてホストファミリーを引き受けてくれたシグニーさんとトム氏，快く送り出してくれた家族にとても感謝しています。

ホームステイ日記

谷本 直哉

我々親善使節団一行は，予定通りタンパ空港に着いた。到着ゲートには，ホストファミリーの方々をはじめとする，現地の関係者の方々が大歓迎をしてくれた。そんな中にエマニュエルさんもいた。

エマニュエルさん，谷本，ジェニファーさん

お互いに初対面ということもあり，多少緊張したが，すぐ打ち解けて話せるようになった。タンパ空港は高松空港に比べて大きく，関西空港や成田空港のように連絡列車に乗ってターミナルに向かった。日本と比べることがそもそもの間違いであるが，これでもまだ中くらいの大きさということに驚くばかりだった。

空港を出ると，とりあえずエマニュエルさんの家へ。車の中では，セント・ピーターズバーグの市内の様子やエマニュエルさん自身のことなどを教えてくれたりした。

家に着くと，奥さんのジェニファーと対面。とっても美しい奥さんにちょっぴりどきどきした。とりあえず家で一休み。家から持ってきた「阿波踊り」と「念仏踊り」の民芸品をプレゼントにさしあげると，とっても喜んですぐ飾り，また，私が「２つとも祖母が作ったものです」と説明すると，大変感動してくださった。

さて，まだまだこの日は終わらない。着替えをして，エマニュエルさんのお店へ。彼の店はセント・ピーターズバーグで一番大きいレストラン。洋食だけでなく，バーやガーデンテーブルもあり，おまけにプロのジャズバンドまで持っている。ちょうどこの日はライブの行われている日。セント・ピーターズバーグ・オーケストラ（プロ）の指揮者（中国人）の方もお店に来られていて，とってもにぎやかだった。“生ライブ”も良かったが，生まれて初めて飲んだ“コニャック”も感動だった。

翌日は午前９時から朝食。エマニュエルさんはフランス系の方なので，フランス式の朝食をいただいた。メニューは，パン，コーヒー，自家製のグレープフルーツジュースといたってシ

ンプルな朝食だった。

朝食後，プライベートビーチを見せてもらうなど家の周辺を散歩した後，市内やタンパまでドライブ。ここに来ても日本車の多さに感動する。後で分かった話だが，やはり日本車は燃費などの性能がいいらしい。

さて，タンパ湾周辺やタンパ市内の車窓を楽しんだ後，飛行場らしいところに着く。「いっぱいセスナが置いてあるなあ～」と感動したところ，「パイロットが来るまでちょっと待って…。」と言われ，少しびっくり。しばらくして，パイロットのトムさんがやってくる。そして１９３３年製の少し年季の入った飛行機に乗る。場所は助手席。後ろにはエマニュエルさんと彼の友達が同乗した。砂浜は白く透き通り，鮫の泳ぐ姿も見ることができた。トムさんはベテランのパイロットで，時々手放し操縦して写真を撮っていた。約３０分の空中散歩だったが，とっても感動した。「増田市長に報告しないといけないなあ～」とつぶやくと，「今度市長が来たら，このセスナに乗ってもらうんだ！」とエマニュエルさんは言っていた。見方を変えると，市長よりも先にいい思いをしたことになる。でも，本当にこんなきれいな海を増田市長にも見せたいものだ。

この後，エマニュエルさんの店で昼食。今度開店させる「スシ・バー」を見せてもらった。今のレストランに隣接している場所だが，まだ内装工事もできていなかったので，これから本格的に工事に取り掛かるところだったのだろう。

昼食後は「ダリ美術館」へ。といっても見学をしたのは自分だけ。エマニュエルさんは夜のパーティの準備に大忙しだった。

ダリ美術館から家に電話をして，ジェニファーさんに迎えに来てもらった。家に戻ると，二人ともパーティの準備で大忙し。とっても話しかけられる状況ではなかったが，フィッシャー市長をはじめとする方々との交流で楽しめた。

エマニュエルさんはジャズファン，そしてジェニファーさんはヴァイオリン弾きの経験の持ち主。音楽での国際交流ができたらいいなと考えていた私にとって，絶好のホームステイ先だったように思う。今振り返ると，暇があればずっと音楽の話ばかりしていたように思う。姉妹都市の者同士という関係をこえて，音楽を愛する者同士，真の国際交流ができたように思う。彼らには，高松にある音楽団体のことを紹介してあげた。現地に，プロのオーケストラがあることも分かった。これからも，音楽を通して市民レベルでの交流が深まるように努力したいし，市役所などの関係機関にも協力をお願いしたい。

ホームステイ日記

平田 百合子

空港に着いたのが夜１０時近くというのに，大勢で迎えてくださりまず感激。私のホストファミリーは，今回２人受け入れということで大変だろうに，明るく活動的な奥さんが迎えてくれてホッと安心，気が楽になりました。噂に聞いていた豪華なお宅で，私は息子さんの部屋を使わせてもらいました。次の日は日曜日で，彼女の生活に合わせてまず教会へ。聖歌隊で歌ったり聖夜劇の指導をする彼女は大活躍でした。その後，あの有名なドンセザールホテルで食事をし，ビーチで泳ぎ，白い砂をお土産にしました。

夜はまた教会で感謝祭のパーティがあるというので一緒に出かけました。ホームメイドの料理やデザートを持ち寄り感謝の気持ちをみんなの前で話し合う，気持ちがあらわれるような会で，いい経験ができました。

教会での感謝祭のパーティにて

その帰りに，次の日の料理のための買い物に行き，クリスマスグッズなどをいっぱい買い込みました。次の日は朝から視察にまわり，最後に市長さんとお会いして歓談。そこでレセプションまでの時間がなくなり，予定していた料理が作れなくなってしまい，大急ぎで鳥のから揚げとえびの天ぷらを作りましたが，素麺は早く帰った人には間に合いませんでした。私は調理に時間がかかってしまい，この時ほとんど皆さんとお話ができずとても残念でした。が，その時知り合った高校の先生とスペイン語で話せたり，その時配った名刺のアドレスにメールをくださる方がいて，有意義な時間だったと思っています。お世話になったご夫婦とはゆっくり過ごした時間があまりなく，個人的に知っている障害者のグループホームに連れていってくれる話や，ボートで夜釣りに行く話が（時間がなくて）なくなってしまい，とても心残りです。ご主人が国際交流委員会の委員長ということで，とても歓待してくださり，視察にまで同行し，私のつたない英語の質問のフォローまでしてくださり感謝の気持ちでいっぱいです。オーラン

ドまで送ってくださった時には，私の子供のことも励ましてくれて，末永くメール交換などしていこうと約束して別れました。暖かくもてなしてくださったウイリアムご夫妻，本当にありがとうございました。

姉妹都市セント・ピーターズバーグ市では本当に歓待され，不安な言葉も必死で分かろうとしてくださり，随分助かりました。前回の人達より滞在日数が少なく，忙しかったなあというのが第一の感想です。視察した後のレセプションは，もう少し時間の余裕がないと，料理して日本の食べ物を紹介するには気ぜわしすぎると思いました。でもホストファミリーの方々が，皆さん理解のある方たちで私たちはとても居心地がよかったです。

子供をいろいろな所に預けて無理して出かけましたが，私はそれなりに充実した視察ができて，行ってよかったなあと思いました。できればセント・ピーターズバーグ市にもう少しゆっくり滞在したかったです。いい機会を与えてくださり，本当にありがとうございました。メンバーの皆さんにも，楽しい旅ができたことを心から感謝，お礼を申しあげます。

テラスでの朝食，ジョン&カリン・ウイリアムズ夫妻と。

ホームステイについて

前田 緑

ホームステイは，ジョン・ウィリアムズ氏とカリンさんご夫妻で，お子様は，息子さんと娘さんが一人ずついらっしゃるのですが，お二人とも独立して他の州で暮らしているということでした。娘のローラさんは，私と同じ年ということで彼女の部屋を使わせてもらうことになり，とても親近感を覚えました。直接お会いすることはありませんでしたが，部屋に置いてあった大きな額の中には，たくさんの写真が切り貼りして飾ってあり，その写真を見るだけで学生生活や友達のこと，それからフィアンセや，親戚の結婚式の様子などいろいろなことが想像できました。そして，クイーンサイズのベッドは，私が縦に寝ても横に寝ても余るほどの大きさで，ぐっすり眠ることができました。

素敵な部屋で大きなベッド

一泊して，最初の朝は日曜日ということで，カリンさんと一緒に教会へ向かい，礼拝を済ますと，次はビーチに行きました。ドン・セザールという有名なホテルをバックに写真を撮ったり，市の鳥でもあるペリカンを見ながら泳いだりしました。ここではビーチの砂がまぶしくて，目を細めるほど白くきれいなものでした。

夜は，教会でサンクスギビングのパーティがあるということだったので，カリンさんと一緒に参加することになりました。バイキング方式で順番に好きなものを取り，テーブルについて食事をします。その後は，

パーティのあった教会

みんなで歌を歌ったり，感謝祭なので，「誰に感謝しますか？」という問いに，「はい，はい，はい」と手を挙げて，みんなそれぞれに発表していったりしました。日本人は，あまり人前でプライベートなことはしゃべりたがらない方が多いと思いますが，ここでは，誰にマイクを回そうかと迷うほど，たくさんの人が手を挙げて発表していました。そして次の日も，市長を含め，我々親善使節団のメンバーとホストファミリーの方々でパーティをしました。こういった雰囲気の中で，姉妹都市の方々と友好親善を深めることができ，とても貴重な体験をすることができました。セント・ピーターズバーグ市の視察と市長表敬訪問が，丸一日ありましたので，ホストファミリーとゆっくり過ごす時間もありませんでしたが，ジョンさんもカリンさんも，とても親切な方で快く受入れてくれたお二人に心から感謝しています。そして，今回の視察に際し，お世話になりました市の職員の方々や，国際交流協会の方々，そして，今回のメンバーの方々，本当にありがとうございました。